

## 臨床パスWGにおける学習会の取り組み ～パスの定着を目指して～

愛媛医療センター 青木芙美

## 当院における臨床パスに関する組織図

### 【臨床パス委員会構成メンバー】

委員長	副院長
副院長	外科部長
副委員長	看護師長
委員長	整形外科医師
	副看護部長
	看護師長
	調剤主任
	副臨床検査技師長
	RI主任放射線技師
	栄養士
	理学療法主任
	医事係長
医療安全係長	

### 【臨床パスWGメンバー】

委員長	看護師長
副院長	副看護師長
副委員長	各部署の看護師1名 計10名

現実・・・  
ほとんどのパス作成や改訂は  
WGメンバー（看護師）が  
主体で行っている

- 新規作成、改定
- 紙パスから電子パスへの移行作業（44件）
- 臨床パスの使用状況の把握
- 臨床パスに関する相談と対応
- 学習会の開催
- 臨床パスマニュアル修正

当院における  
パスWGの活動内容

## 学習会の目標

問題1：メンバーの入れ替わりや、全体研修が中止になったことにより  
パスに対する知識不足がある

➡取り組み① 基本的な知識習得に向けた学習支援

問題2：電子パス移行作業がスムーズに行えない

➡取り組み② 電子カルテを用いたシミュレーションによる学習支援



# 学習会取り組み①

メンバーの知りたいこと、  
苦手なところを知ろう！！

- ・パスとは(定義)
- ・意義
- ・形式
- ・バリエーション分析
- ・アウトカムの評価
- ・作成方法
- ・電子パスの操作方法

学習会の方法：参加型・講義型

- カレーライスパス作成
- 電子パス使用方法のシミュレーション
- 講義

# 取り組み①実際 カレーライスパス作成

「カレーライスパス」を作ろう！

1. 研修内容  
 ・カレーライスの作り方のパスの工程に働き添えて、クリニカルパスの作成方法を学習する  
 ・グループワークでカレーライスパスを作成する（1グループ4-6名）  
 ・グループワークの結果を発表し、意見交換する

2. 時間配分  
 ・オリエンテーション 5分  
 ・グループワーク 45分  
 ・グループワークに発表 10分

3. グループワークの進め方  
 ・各グループ、発表者を決める  
 ・作成ポイントに沿って、話し合いを進める  
 ・模造紙の中に書き込む

4. 作成ポイント  
 1) 4人分のカレーライスを作成する  
 2) カレーのテーマを決める  
 3) 材料は、材料表から選ぶ（材料表にないものは、価格を調べる）  
 4) ①-③のタスク（介入項目）を必ず入れる  
 5) 各タスク（介入項目）のアウトカム（成果目標）を決める  
 6) 1人分の費用を計算する

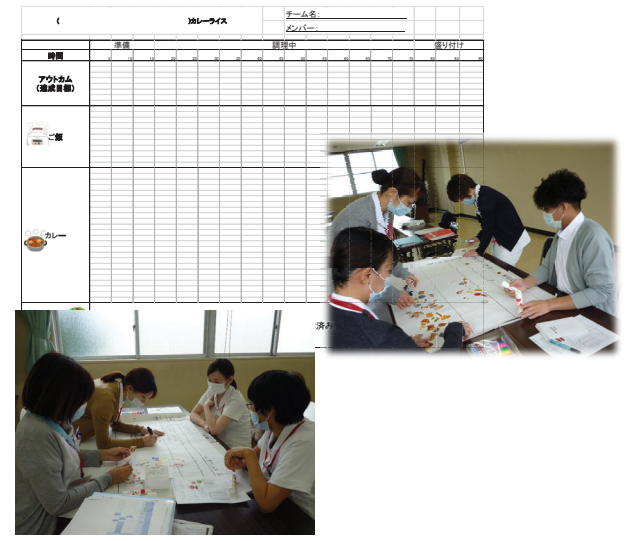
使用する材料の種類	数量	単価(円)
カレー	1箱	1000
じゃがいも	1個	50
にんじん	1本	35
玉ねぎ	1個	40
卵(生)	1.00g	60
1冊(カレー)	1.00g	180
醤油(生)	1.00g	180
味噌(生)	1.00g	190
砂糖(生)	1.00g	160
塩(生)	1.00g	130
カレー粉	1.00g	150
にんにく	1片	25
カレールー	1箱	300

タスク（介入項目）と所要時間

タスク（介入項目）	所要時間
① 材料を切る	5分
② 材料を炒める	10分
③ 野菜を加える	60分
④ 煮込み始める	5分
⑤ 湯を煮る	20分
⑥ ルーを入れる	15分

総所要時間：約115分

5. 各グループから発表、意見交換  
 ・テーマ、グループ名  
 ・主要なポイント、ゴールポイント、標準時間、1人分の費用  
 ・カレーライスパスを作成した感想、意見など



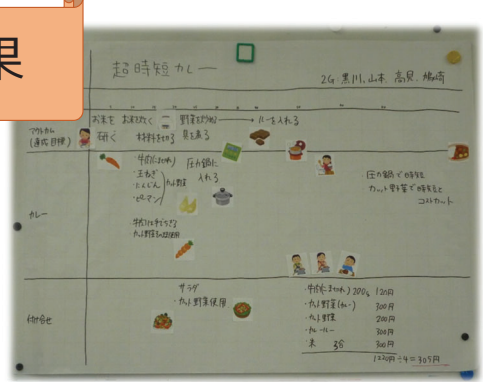
# 学習会取り組み① 成果

お互いの成果を  
語り共有する

**目標達成!**

【参加者からの意見】

- \*グループによってコンセプトが違い、気づきがあった
- \*グループワークで、パスについて楽しく学ぶことができた
- \*クリニカルパスを身近なものに置き換え、考えることができた
- \*今回学んだことをパス作成に活かしていきたい



# 学習会取り組み② 成果

## クリニカルパスの定義

患者状態と診療行為の**目標**、および  
**観察・アセスメント** **標準プロセス**  
**評価・記録**を含む**標準診療計画**であり、  
**バリエーション**  
 標準から**順位**を分析することで、**医療の質を改善**する手法  
 (日本クリニカルパス学会 2014年)

## パスの利点・欠点

- 利点**
- 医療の標準化
  - チーム医療の推進
  - 患者参加型医療の提供
  - 職員教育
  - 業務効率化・コスト管理
- 欠点**
- 操作に慣れるのに時間がかかる
  - 運用による雑務など、負担の増加
  - 不具合発生時の不安がある

## アウトカム

**アウトカム: 治療ケアの達成目標**

- 患者アウトカム: 患者状態の目標 (患者が主語)  
望ましい成果、あるべき状態、達成すべき状態
- 医療者アウトカム: 診療行為の目標 (医療者が主語)  
タスク(業務・仕事)  
処置、検査、説明、記録などのこと

患者アウトカムと医療者アウトカムは連動している

**目標達成!**

あやふやだった知識が  
基礎から学習することで  
根拠のあるものとなった

## 学習会取り組み③

電子パス使用方法をシミュレーションしてみよう！！

### 2. 業務

#### 1) バスカレンダーからの業務

① オーダの確認と実施

\*オーバービュー画面の表記には「メモ書き」  
業務の概要を一覧で確認するには便利。  
(メモはあくまでメモ。オーダーと連動しておりません。記録でもありません)



各項目をクリックすると  
オーダー内容の詳細が表示される

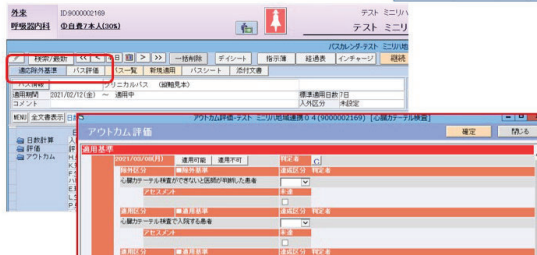
【画面オーダー】  
オーダー内容をクリックすると  
画像データ入力画面が開きます。  
(修正、変更が可能)

実際にPCで操作しながら  
資料にそって実施

### 3. 評価 (適用する時に必要)

#### 1) 適用基準評価 除外基準評価

1. 適用時に「適用除外基準」
2. バスカレンダーから「適用除外基準」
3. バスカレンダーから「バス評価」



知識は習得したが  
電子パスへの移行が進まない



ドクターアシスタント  
(以下DA) へ協力を依  
頼できれば・・・

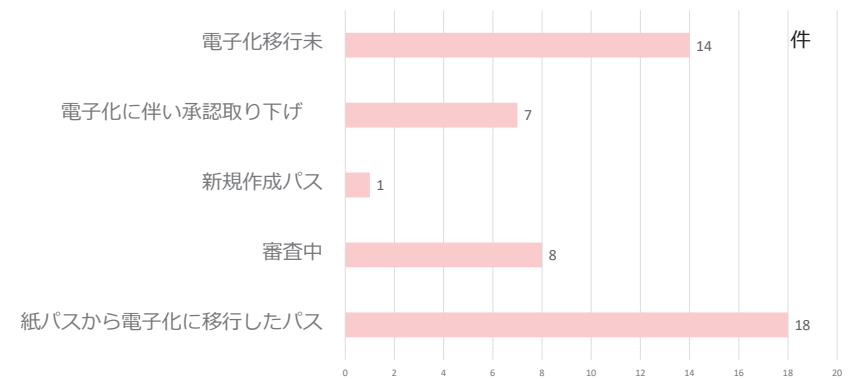
明日からパスを使うために！！

- 担当医師に電子パスの作成方法を個別に説明
- 医師に運用方法を説明 (テスト患者を用いて実際に適応作業を実施)
- DAに電子パスの作成方法や操作方法のシミュレーションを実施

### 成果

- 医師と看護師が話し合った結果を、医師の指示のもとDAに入力依頼し作業がスムーズに行えた
- 医師の指示のもとDAがパスを適応させることができるため、医師の業務負担の軽減に繋がった

## 2021年度のデータ



パス使用総数 1507件      うち電子パス使用件数 984件

## まとめと課題

- ▶ クリニカルパスを電子カルテに移行、運用したりする上で多職種との連携（特に医師やDA）が重要であることを再認識した。
- ▶ 病院全体で研修を積み重ね、理解を深める教育が重要である
  - 感染対策をこじった集合研修の開催やe-ラーニングの活用
  - 新人研修にパスについての内容を追加
- ▶ 電子化に伴い、現場に対応した運用支援が必要
  - WGメンバーや現場スタッフに対してシミュレーションを実施